

短報

松澤篤郎コレクションより見いだされた群馬県未記録維管束植物 1

大森威宏

群馬県立自然史博物館:〒370-2345 群馬県富岡市上黒岩1674-1  
(ohmori@gmnh.pref.gunma.jp)

**要旨:** 松澤篤郎コレクションは、館林市在住の同氏から2013年に群馬県立自然史博物館に寄贈された、群馬県ではまとまった植物標本コレクションで、現在標本の整理と同定の見直しを行っている。松澤篤郎コレクションの中から群馬県から過去に記録がなかった在来種のムサシモ *Najas ancistrocarpa* A.Braun ex Magnus, アキウネマ加里 *Sasa akiuensis* (Sad.Suzuki) Sad.Suzuki, エッサシノ *Sasaella shiobarensis* (Nakai) Nakai ex Koidz. var. *yessaensis* (Koidz.) Sad.Suzuki, ハマアオスゲ *Carex fibrillosa* Franch. et Sav.と外来種のホソバツルノゲイトウ *Alternanthera denticulata* R.Br., ハリゲナタネ *Brassica tornefortii* Gouan, アサガオ *Ipomoea nil* (L.) Roth, ハマクマツヅラ *Verbena litoralis* Kunth, ミナトカラスムギ *Avena barbata* Pott ex Linkの9種類が見出された。

**キーワード:** 群馬県立自然史博物館, 松澤篤郎コレクション, 群馬県初記録, 維管束植物

Vascular plants newly recorded from Gunma Prefecture  
from the Tokuro Matsuzawa collection, GMNHJ. 1

OHMORI Takehiro

Gunma Museum of Natural History: 1674-1 Kamikuroiwa, Tomioka, Gunma Prefecture  
(ohmori@gmnh.pref.gunma.jp)

**Abstract:** Herbarium of Gunma Museum of Natural History (GMNHJ) was donated a herbarium specimen collection by Tokuro Matsuzawa, living in Tatebayashi, Gunma, in 2013. Four native Gunma prefecture vascular plants and five exotic ones were newly recorded from by the collection. *Najas ancistrocarpa* A.Braun ex Magnus, *Sasa akiuensis* (Sad.Suzuki) Sad.Suzuki, *Sasaella shiobarensis* (Nakai) Nakai ex Koidz. var. *yessaensis* (Koidz.) Sad.Suzuki and *Carex fibrillosa* Franch. et Sav. are native species and *Alternanthera denticulata* R.Br., *Brassica tornefortii* Gouan, *Ipomoea nil* (L.) Roth, *Verbena litoralis* Kunth and *Avena barbata* Pott ex Link are exotic species.

**Key words:** Gunma Museum of Natural History, Tokuro Matsuzawa's Collection, Newly recorded from Gunma, vascular plant

はじめに

松澤篤郎氏は館林市在住で、同地域を中心に小中学校教員として活躍されるとともに、群馬県自然環境調査研究会会員として県内の植物の調査に尽力されている。また、松澤氏は東京大学内地留学中に両毛地域に位置する渡良瀬川とその支流域山塊の植物相を主な研究テーマとされ、また分類が困難なイネ科タケ亜科の群馬県内の分布研究をライフワークとされている。松澤氏の研究成果は自費出版の形で引用標本とともにリスト化され解説が加えられている(松澤, 1997, 2001; 松澤・青木, 1992)。松澤氏は地元邑楽館林地域で採集された植物を新旧群馬県植物誌(戸部ほか, 1968, 1987)や、地元自治体の市町村誌や自然環境調

査報告書に報告された(板倉町教育委員会編, 1997; 松澤, 1995; 松澤・青木, 2006)。さらに渡良瀬川流域の旧山田郡大間々町誌でもまとまった植物リストを作成された(大間々町誌編さん室編, 1994)。

松澤氏の標本は群馬県立自然史博物館が開館した直後の1999~2003年にその一部の約2000点が同館に寄贈されたが、2013年11月1日に残りの標本がまとめて寄贈され、総点数は20000点に達すると見積られる。これらの多くは前述の文献の証拠標本であるが、このほか未同定のまま寄贈された標本や、採集当時と現在では分類学的な見解が異なる標本、さらに誤同定がなされた標本もあり、その中には群馬県から記録のない植物の標本も含まれ、現在も整理を行っている。本稿では松澤篤郎氏の寄贈標本のうち、

現在整理・再同定が終了した約 6400 点の中で過去に群馬県から標本記録のない植物を報告する。なお、松澤氏の寄贈標本は今後も整理を進め、新知見については順次報告する予定である。

### 群馬県新に確認された群馬県産在来植物種

#### ムサシモ *Najas ancistrocarpa* A. Braun ex Magnus: Hydrocharitaceae

ムサシモは日本では本州と四国に分布するイバラモ科の一年草である (角野, 2014)。1977 年に邑楽郡板倉町の水田で採集され、トリゲモと同定された標本が本種であることが判明した。ムサシモは一見するとイトトリゲモに類似するが湾曲した果実で比較的容易に同定できる (角野, 2014)。今回見いだされた標本もこの特徴から本種と同定できた。ムサシモは開発が著しい平地に分布が集中し早い時期に消失したことに加えて、先駆性が強いために生育が長続きせず発見が難しい場合が多い。このためムサシモは環境省のレッドデータブックでは絶滅危惧 I B 類 (EN) に指定されている (環境省自然観環境局野生生物課希少種保全推進室編, 2015)。群馬県のムサシモはその後も記録はないが、本種が採集された水田地帯ではその後の再調



Fig. 1. A specimen of *Najas ancistrocarpa* collected in Itakura, Gunma Prefecture and an achne (enlarged).



Fig. 2. An achne of *Najas ancistrocarpa* on the herbarium specimen from Itakura, Gunma.

査はなされておらず、また、埋土種子集団が存在している可能性も否定できない。このため、群馬県におけるムサシモは現在のところ絶滅種よりも情報不足種として扱う方が妥当と考えられる。

Voucher Specimen: Japan, central Honshu, Gunma Pref.: GMNHJ-BS-180120 (Hanare, Itakura Town: 群馬県邑楽郡板倉町離, 6 Sep., 1977, Matsuzawa, Tokuro s. n.).

#### アキウネマ加里 *Sasa akiuensis* (Sad.Suzuki) Sad.Suzuki: Poaceae

アキウネマ加里は宮城県仙台市秋保温泉を基準産地とし、本州中北部の日本海側及び栃木県日光の垂高山帯に分布するイネ科ササ属チシマザサ節の植物である (鈴木, 1996)。1998 年に利根郡みなかみ町の谷川岳で採集され、松澤氏自らによって本種と同定された標本が寄贈コレクションに含まれていた。ササ属は形態が類似しており、ま



Fig. 3. A specimen of *Sasa akiuensis* collected on Mt. Tanigawa-dake, Gunma Prefecture.

た複数の種が同じやぶの中に生育することがあるため、分類が難しい上に採集には細心の注意を要する。特にアキウネマダリは現地で普通種のチシマザサとして片付けられ見逃される可能性が高い。このため、多雪地のササを精査すると分布地点は増える可能性がある。

**Voucher Specimen:** Japan, central Honshu, Gunma Pref.: GMNHJ-BS-83501 (Mt. Tanigawa-dake, Minakami Town: 群馬県利根郡水上町谷川岳, 8 Jun., 1998, Matsuzawa, Tokuro s. n.).

**エツサシノ** *Sasaella shiobarensis* (Nakai) Nakai ex Koidz. var. *yessaensis* (Koidz.) Sad.Suzuki: Poaceae

エツサシノは新潟県佐渡を基準産地とし、このほかに本州中北部に分布するイネ科アズマザサ属の植物である。鈴木貞雄氏は本種をシオバラザサの変種として扱い、後にそのシノニムとした(鈴木, 1996)。ただし、現在用いられている日本維管束植物目録や Y-List ではシオバラザサの変種として採録されている(米倉, 2012)。1993年にみどり市(旧勢多郡東村)で採集された標本が、鈴木貞雄氏によって本種と同定されていたことが判明した。アズマザサ属はササ属とメダケ属の交雑に由来すると考えられている



Fig. 4. A specimen of *Sasaella shiobarensis* var. *yessaensis* in Midori City, Gunma Prefecture.

属で、分類は非常に難しい。群馬県内のシオバラザサの分布域のやぶを精査すればみどり市以外にもエツサシノが生育している可能性はあると考えられる。

**Voucher Specimen:** Japan, central Honshu, Gunma Pref.: GMNHJ-BS-81972 (Yokokawa, Kusagi, Azuma Vill., : 群馬県勢多郡東村草木 横川, 24 Sep., 1993, Matsuzawa, Tokuro s. n.).

**ハマアオスゲ** *Carex fibrillosa* Franch. et Sav.: Cyperaceae

ハマアオスゲは日本では本州以南に分布し、海岸砂浜やその背後の樹林内の砂地に生えるカヤツリグサ科スゲ属の植物である(勝山, 2005)。2008年5月20日に桐生市の渡良瀬川で行われた河川調査の際の証拠標本が松澤氏に送られ、それが今回寄贈された標本の中から見つかった。なお、他の群馬県立自然史博物館の収蔵標本から、前橋市と新田郡尾島町(現太田市)の利根川でも採集されていることがその後明らかになった。いずれの採集地点も河川中流域に位置している。群馬県の河川中流域からはコウボウムギやハマエンドウなどの海岸植物も知られており(戸部ほか 1987)、ハマアオスゲもこれらの植物同様河原の砂が堆積して砂浜のようになった場所に特異的に生育する種と考えられる。



Fig. 5. A specimen of *Carex fibrillosa* collected on Watarase River, Kiryu, Gunma Prefecture.

**Voucher Specimen: Japan, central Honshu, Gunma Pref.:** GMNHJ-BS-82916 (Watarase Riv., Orihimecho-Kiyosecho, Kiryu City: 群馬県桐生市織姫町, 清瀬町 渡良瀬川, 20 May, 2008, Imai, Chikara: 今井 力, 080520F6 i043.).  
**松澤コレクション以外の標本:** GMNHJ-BS-57961 (Tone Riv., Minamicho, Maebahi City: 群馬県前橋市南町 利根川, 30 May, 1956, Tobe, Masahisa: 戸部正久, s. n.), GMNHJ-BS-31440 (Tone Riv., Ojima-machi: 群馬県新田郡尾島町 利根川, 17 Apr., 1972, Suto, Shinayuki: 須藤志成幸 1440).

### 群馬県新産外来植物

#### ホソバツルノゲイトウ

***Alternanthera denticulata* R.Br.: Amaranthaceae**

ホソバツルノゲイトウは関東南部以西に帰化し、やや湿った陽地に生える一年草である (米倉, 2003). 2008年9月30日に館林市の渡良瀬川で行われた河川調査の際の証拠標本が松澤氏に送られ、それが今回寄贈された標本の中から見つかった. なお、本属ではツルノゲイトウ *Alternanthera sessilis* (L.) DC がすでに2000年に館林市城沼畔で記録されている (松澤・青木, 2006). 本種もツルノゲイトウも平野部の畑や河川敷など、植物愛好家がほとん



Fig. 6. A specimen of *Alternanthera denticulata* collected on Watarase River, Tatebayashi, Gunma Prefecture.

ど注目しない場所によく生えるために、標本が採られた群馬県南東部の平野部ではこのほかにも分布している可能性がある.

**Voucher Specimen: Japan, central Honshu, Gunma Pref.:** GMNHJ-BS-82925 (Watarase Riv., Shimosagawadacho, Tatebayashi City: 群馬県館林市下早川田町 渡良瀬川, 30 Sep., 2008, Hirano, Ryo: 平野亮, 080930F2 h950).

**ハリゲナタネ *Brassica tornafortii* Gouan: Brassicaceae**

ハリゲナタネは日本では1978年に静岡県清水港で初めて採集されたアブラナ科の越年草である (中井, 2003). ただし、ハリゲナタネはキバナスズシロモドキ *Coincya monensis* (L.) Greuter et Burdet subsp. *cheiranthos* (Vill.) Aedo, Leadlay et Muroz Garm. と混同されたため、日本への侵入年次は明らかでないといわれる (植村ほか, 2010). 1980年に館林駅に隣接する日清製粉工場前で松澤氏によって採集された種不明の標本の中に、今回筆者によりハリゲナタネと同定されたものが含まれていた. さらに松澤篤郎氏の標本より前の1975年に須藤志成幸氏によって太田市で採集され、オハツキガラシ *Erucastrum gallicum* (Willd.) O.E.Schulz と当時同定された標本も今回筆者によって本種に再同定された. 中井 (2003) は、本種はコムギ製粉工場



Fig. 7. A specimen of *Brassica tornafortii* collected in Tatebayashi, Gunma Prefecture.

との関連が推定されると指摘している。館林駅も太田駅（採集当時）も駅に隣接して大きな製粉工場があり、この指摘によく合致している。2014年に太田市から40km以上離れた高崎市の烏川河川敷でキバナズシロモドキとして採集された植物も本種であることが判明した。このことから、群馬県のハリゲナタネは1980年前後にはコムギ製粉に伴う一時帰化の状態であったが、2010年代に別の起源の株が侵入し、河川敷で生育するようになったと考えられる。

**Voucher Specimen: Japan, central Honshu, Gunma Pref.:** GMNHJ-BS-84182 (Front of Nisshin milling factory, Tatebayashi City: 群馬県館林市日清製粉工場の前, 16 May, 1980, Matsuzawa, Tokuro *s. n.*).

**松澤コレクション以外の標本:** GMNHJ-BS-33997 (Ota Station, Ota City: 群馬県太田市太田駅, 2 May, 1975, Suto, Shinayuki: 須藤志成幸, *s. n.*), GMNHJ-BS-16086 (Left side of Karasu Riv., Namie-cho, Takasaki City: 群馬県高崎市並榎町烏川左岸, Alt. 90 m, 17 Apr., 2014, Ohmori, Takehiro: 大森威宏 10740).

**アサガオ *Ipomoea nil* (L.) Roth: Convolvulaceae**

アサガオは栽培植物として広く栽培されるインド原産のヒルガオ科の一年草である。1990年に邑楽郡大泉町の空き地で松澤氏によって採集されたヒルガオ科の植物は葉や

萼裂片、花冠の形態、サイズから本種と同定された。明らかに園芸逸出と考えられるが、アサガオは古くから栽培され逸出していたとも考えられる。今まで群馬県立自然史博物館には野生化したものの収蔵標本にはなく、また文献記録もないことから本稿で県内における最初の分布記録とする。

**Voucher Specimen: Japan, central Honshu, Gunma Pref.:** GMNHJ-BS-81949, 81950 (Sengoku, Oizumi Town: 群馬県邑楽郡大泉町仙石, 22 Sep., 1990, Matsuzawa, Tokuro *s. n.*).

**ハマクマツヅラ (ヒメクマツヅラ)**

***Verbena litoralis* Kunth: Verbenaceae**

ハマクマツヅラ (ヒメクマツヅラ) は第二次大戦後琉球で帰化が知られ、現在神奈川県以西でまれにみられる多年草である (邑田, 2003)。1992年に邑楽郡邑楽町の河畔で松澤氏により採集され、浅井康宏氏によってハマクマツヅラと同定された標本が見いだされた。ハマクマツヅラは群馬県立自然史博物館に他の収蔵標本もなく、また環境調査の報告書や、県内の外来植物をとりまとめたチェックリストにも記録がない (大森威宏編, 2009)。このため、本種の県内における分布は一時的または散発的なものと考え



Fig. 8. A specimen of *Ipomoea nil* collected in Oizumi, Gunma Prefecture.

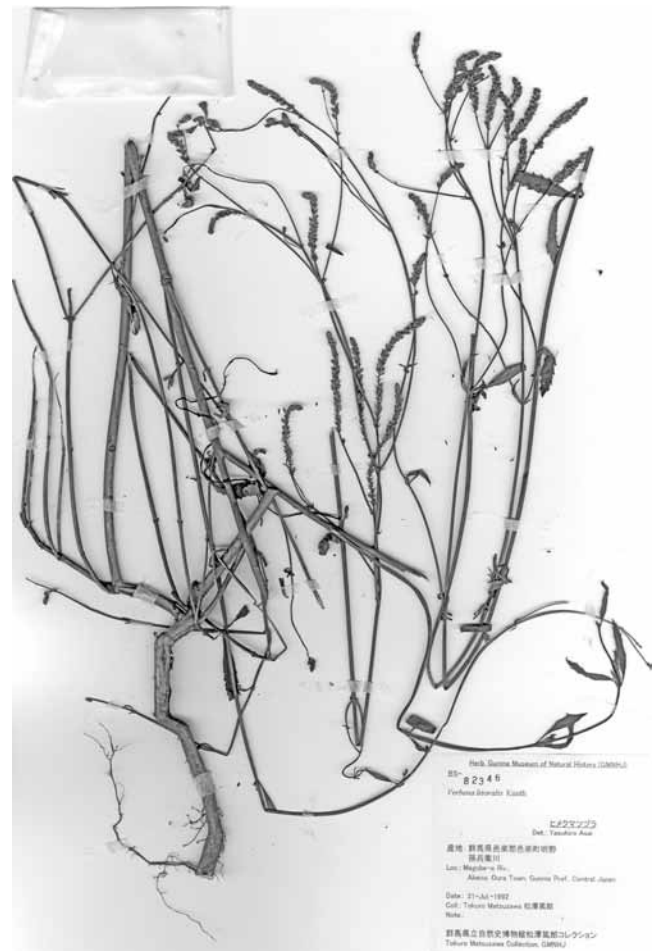


Fig. 9. A specimen of *Verbena litoralis* collected in Oura, Gunma Prefecture.

られる。ただし本種はアレチハナガサ *Verbena brasiliensis* Vell. に外形が似ているため、同種と混同されて見逃されている可能性もある。

**Voucher Specimen:** Japan, central Honshu, Gunma Pref.: GMNHJ-BS-82346 (Magobei Riv., Akeno, Oura Town: 群馬県邑楽郡邑楽町明野 孫兵衛川, 31 Jul., 1992, Matsuzawa, Tokuro s. n.).

**ミナトカラスムギ** *Avena barbata* Pott ex Link: Poaceae

ミナトカラスムギは国内では1961年静岡県清水港で初めて採集され、神奈川、静岡、三重、兵庫、宮崎などから記録があるイネ科の一年草である(勝山ほか, 2003)。1972年に館林駅に接して位置する日清製粉の工場のそばで松澤篤郎氏によって採集され、カラスムギ *Avena fatua* L. と同定された標本が標本整理の過程で筆者により本種と同定された。群馬県立自然史博物館にはミナトカラスムギはこの標本以外になく、群馬県唯一の記録である。館林市の日清製粉工場は構内に鉄道の専用線を持ち、1966年～1996年の間横浜市の大川駅からホッパー貨車によって輸入コムギのバラ積み輸送を行っていた(インターネットサイト: 日本の鉄道貨物輸送と物流 <http://butsuryu.web.fc2.com/nisshin-seifun.html> による)。このため、同工場周辺は横浜港からの輸入コムギに混入した多種の外来植物が記録され、本種もその一つと考えられる。

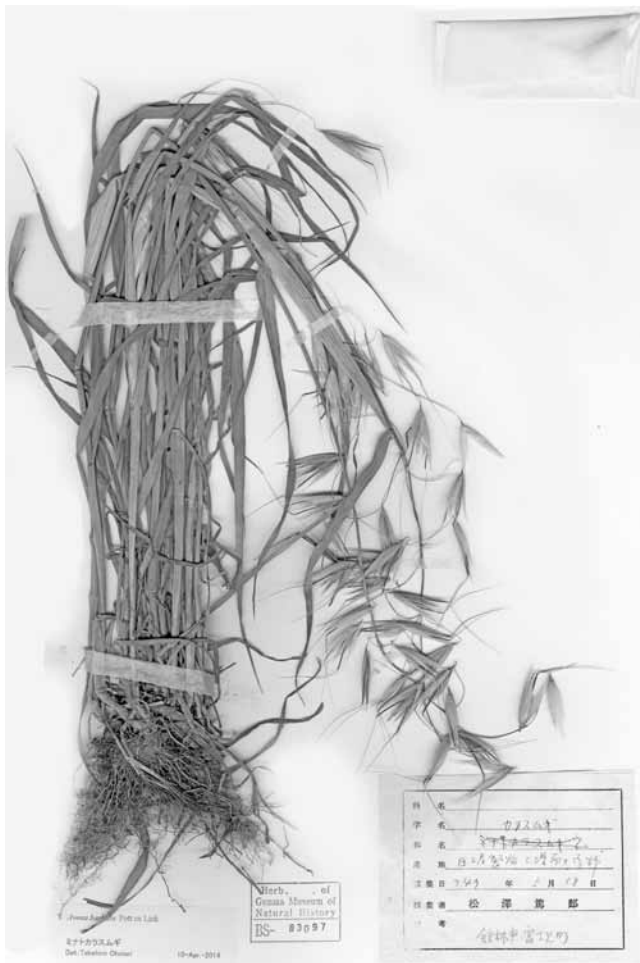


Fig. 10. A specimen of *Avena barbata* collected in Tatebayashi, Gunma Prefecture.

**Voucher Specimen:** Japan, central Honshu, Gunma Pref.: GMNHJ-BS-83097 (South of Nisshin milling factory, Fujimi-cho, Tatebayashi City: 群馬県館林市富士見町日清製粉工場の南, 18 May, 1972, Matsuzawa, Tokuro s. n.).

## 引用文献

- 板倉町教育委員会編 (1997): 板倉町の自然環境'97 資料編. 板倉町教育委員会, 300pp.
- 角野康郎 (2014): ネイチャーガイド 日本の水草. 文一総合出版, 東京, 326pp.
- 環境省自然観環境局野生生物課希少種保全推進室編 (2015): レッドデータブック 2014 - 絶滅のおそれのある野生生物 - 8 植物 I (維管束植物). ぎょうせい, 東京, 646pp.
- 勝山輝男 (2005): ネイチャーガイド 日本のスゲ. 文一総合出版, 東京, 375pp.
- 勝山輝男・木場英久・白井伸和 (2003): イネ科 POACEAE (GRAMINEAE). 清水建美 (編著) 日本の帰化植物, 平凡社, 東京, p. 242-290.
- 松澤篤郎 (1995): 12 植物目録 館林市・邑楽郡の高等植物目録. 館林市教育委員会 (編) 文化財総合調査 館林市の植物. 館林市教育委員会, 館林, p. 138-176.
- 松澤篤郎 (1997): 増補改訂 渡良瀬川支流山塊の高等植物 類似植物の見分け方ハンドブック. 自費出版, 館林, 264pp.
- 松澤篤郎 (2001): 群馬県タケ, ササ類植物誌. みやま文庫, 前橋, 181pp.
- 松澤篤郎・青木雅夫 (1992): 渡良瀬川支流山塊の植物 (シダ植物編) シダ植物の分布と見分け方. 自費出版, 館林, 157pp.
- 松澤篤郎・青木雅夫 (2006): 1. 植物. 館林市史資料目録『たてばやし動物目録および調査基礎資料集-1』. 館林市, 78pp.
- 邑田 仁 (2003): クマツヅラ科 VERBENACEAE. 清水建美 (編著) 日本の帰化植物, 平凡社, 東京, p. 168-169.
- 中井秀樹 (2003): アブラナ科 CRUCIFERAE (BRASSICACEAE). 清水建美 (編著) 日本の帰化植物, 平凡社, 東京, p. 80-96.
- 大間々町誌編さん室編 (1994): 大間々町誌 別巻 4 植物編. 大間々町誌刊行委員会, みどり市, 613pp.
- 大森威宏編 (2009): 群馬県外来植物チェックリスト 2008 年版. 群馬県立自然史博物館, 富岡市, 152pp.
- 鈴木貞雄 (1996): 日本タケ科植物総目録 増補改訂版 日本タケ科植物図鑑. 聚海書林, 船橋市, 271pp.
- 戸部正久・里見哲夫・島野好次 (1968): III 群馬県植物目録. 群馬県植物誌編集委員会 (編) 群馬県植物誌. 群馬県高等学校教育研究会生物部会・群馬生物教育研究会, 前橋, p. 15-160.
- 戸部正久・里見哲夫・島野好次・松沢篤郎・須藤志成幸 (1987): 群馬県自生高等植物目録. 群馬県高等学校教育研究会生物部会 (編) 群馬県植物誌 改訂版. 群馬県, p. 153-393.
- 植村修二・勝山輝男・清水矩宏・水田光雄・森田弘彦・廣田新七・池原直樹 (2010): 日本帰化植物写真図鑑 第2巻. 全国農村教育協会, 東京, 579pp.
- 米倉浩司 (2012): 日本維管束植物目録, 邑田 仁監修, 北隆館, 東京, 379pp.
- 米倉浩司 (2003): ヒユ科 AMARANTHACEAE. 清水建美 (編著) 日本の帰化植物, 平凡社, 東京, p. 68-74.